

外科 マンスリーレター 2019.1

皆さま はじめまして

2018年10月より市立大津市民病院 外科に着任致しました 和田聡朗（わたとしあき）と申します。
毎週木曜日 外科1診 外来を担当しております。

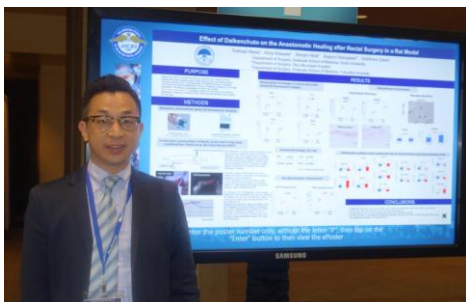
今回の外科マンスリーレターは私の自己紹介とさせていただきます。

私は昭和53年に和歌山市で生まれ、智弁和歌山中高を出たのち、浜松医科大学を平成15年に卒業致しました。その後、和歌山日赤などで修練を積み、京都大学病院勤務、京都大学消化管外科大学院での研究生生活を臨床と合わせて5年半続けてまいりました。前任の岡部寛先生には大学病院勤務時代には高度な手術手技を勉強させて頂きました。（岡部寛先生と入れ替わりになってしまい一緒に働けないことは非常に残念であります。）

京都大学では消化管外科における一般的な腹腔鏡手術はもちろんのこと、ロボット支援下手術、経肛門的直腸切除術（taTME）や肛門温存手術（内括約筋切除）など最先端で高難易度の手術も多く経験してきました。研究においては、直腸手術の合併症である縫合不全を予防するためにICG蛍光法を用いた腸管血流評価法を確立し、それと並行して漢方薬（大建中湯）内服による大腸癌術後早期回復の臨床応用への取り組みもおこなってきました。

今後これらの経験を市立大津市民病院での臨床の現場に活かしていければと考えております。

「患者さんの病状、社会的な背景を考え、しっかりお話をした上で最善の治療を選択し、治療していきたいと思っています。」



2018.5 ASCRS (アメリカ大腸肛門外科学会)



京都大学での経肛門的直腸手術



京都大学でのロボット直腸手術



ICG蛍光法の研究
2018.1 ミラノ大学 Prof. L Boniと

当科は虫垂炎、胆嚢炎、腸閉塞、消化管穿孔といった腹部救急疾患に24時間対応可能です。また、消化器癌全般、鼠径ヘルニアもほぼ全例、腹腔鏡手術で行い、低侵襲で高クオリティの手術を行っています。近隣の先生方は引き続きご指導ご鞭撻宜しくお願い致します。